

種別	工種	事例名	シート番号
漏水	給排水	置床工事時の針が給湯管を貫通し漏水	1-1

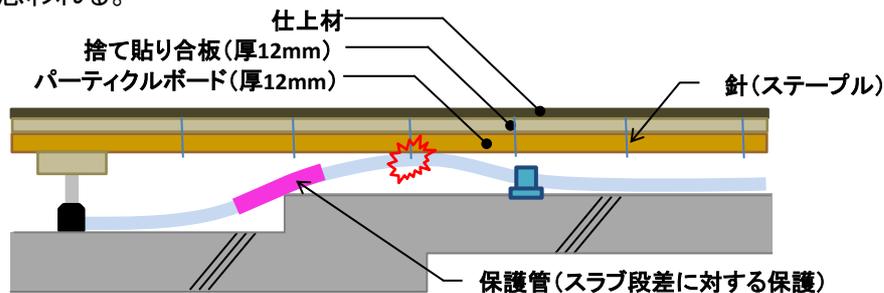
不具合事例・状況

マンションにおいて、竣工後、約1年経過して漏水が発生。置床のパーティクルボードに打ち付ける捨て貼り合板に使用したタッカーの針(ステープル)がパーティクルボードを貫通し、下部にある給湯管(架橋ポリエチレン管)を傷つけていた。



原因

竣工検査時の脈動水圧試験では水圧の降下はなく漏水はしていなかった。入居後の使用により給湯管を傷つけていた針が腐食、あるいは配管の伸縮により針が徐々に外れ漏水したものと思われる。

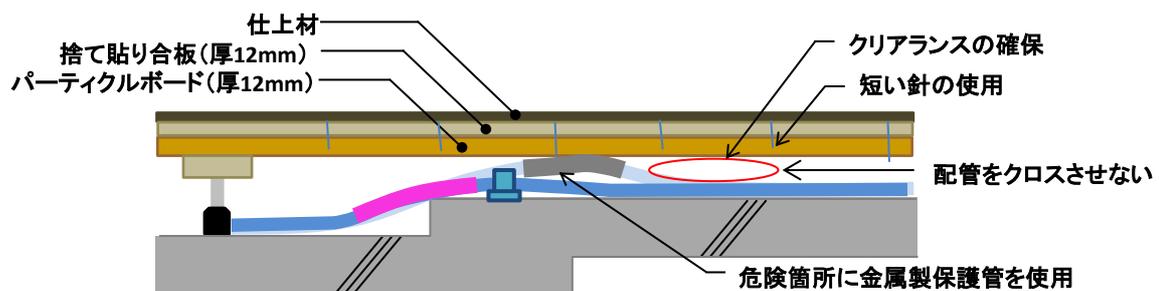


対処方法

漏水箇所手前の点検口周辺部で該当配管を切断し、機械式継手にて接続。以降配管を引き直した。

再発防止対策

1. 置床材下端から針が出ないように、置床の施工要領書作成時に建築と調整を行う。(針長さの指定)
2. 万が一針が出ても樹脂管に届かないよう、クリアランスを確保する。
3. 床下空間に余裕のない箇所では配管をクロスさせない。
4. 止むを得ずパーティクルボードに接触する場合は金属製保護管等にて防護する。



備考	参考文献：	制定	2020年3月1日
	参考メーカー：	改訂	